

## 【作文（中学生）の部】鹿児島県知事表彰 優秀賞

### 「知識が命を守る」

鹿児島純心女子中学校 2年 徳永 未来

日本各地では毎年のように土砂災害による被害が発生しています。それは、日本が台風や梅雨の影響を受けやすいからです。

私たちが住む鹿児島県でも土砂災害による被害は少なくありません。なぜなら鹿児島県は火山が作った崩れやすいシラス台地で広くおおわれていて、桜島などの活火山が多く、火山噴火にともなって地震も起きるからです。

また、1年を通して雨が多く、台風の通り道であるため強い風が集中して降り続くことがあるのです。そして、小さな山がとて多く平野が狭いため、山や崖のすぐ近くにも家が建てられてきたという地域の特色があるからです。

私が毎朝通学で利用しているJRの駅に竜ヶ水駅があります。駅のホームには「竜ヶ水災害復旧記念碑」というものがあります。どうしてそのようなものが建てられているのか調べてみたところ、8・6水害という大きな土砂災害が起こっていたことを知りました。

鹿児島市竜ヶ水地区では国道10号沿いの崖が4キロメートルの区間で22箇所にわたり崩壊し、通行車両1200台やJRの列車乗客、地域住民など約3000名が完全に孤立してしまいました。これら孤立した人々については、官民一体となった海上からの救出活動で救助されましたが、一夜明けた被災地はさながら地獄の様相で、この豪雨により一夜のうちに48名もの人命が奪われ、1名が行方不明となりました。

私は土砂災害について、もっと詳しく調べるために鹿児島県防災センターを訪ねました。

土砂災害にはそれぞれ前兆現象があるそうです。川の水位が下がったり、山鳴りがしたり、腐った土のにおいがしたりする場合は土石流の危険性があり、がけに亀裂が入ったり、水が湧き出したりした場合はがけ崩れ、沢や井戸の水が濁ったり、地面にひび割れができたり、斜面から水がふき出したり、家や壁に亀裂が入ったり傾いたりした場合は地すべりの危険性があります。

このような前兆現象をみつけて、早めの避難をすることが大切です。そのためには、私たち一人一人が自分の命は自分で守るという強い気持ちを持って日頃の備えをしておくことが必要です。

家の近くに危険な場所はないか調べたり、避難方法や連絡方法を家族で話し合ったりして、普段から災害を意識して生活を送ることでいざという時にすばやい行動がとれるはずですよ。

鹿児島県防災センターでは、避難するときに必要なものをクイズ形式で体験することができました。連絡手段として必要なものという問題で私は携帯電話だと思ったのですが、答えは小銭でした。私は長時間の停電を経験したことがないので思いつきませんでした。

自分の居場所を知らせるホイッスル、情報を得るための手動ラジオ、寒さから身を守る防寒シートなどを準備していつでも持ち出せるようにしておくことが自分にもできる備えだと思いました。

私は土砂災害から県民の安全を確保するためにさまざまな対策がなされていることを知りました。ソフト対策として、土砂災害警戒区域等の指定、土砂災害警戒情報の発表等（災害時の情報提供等）、防災教育の推進など、ハード対策として砂防えん堤などの施設整備による土砂災害の防止などいろいろな取り組みで私たちの生命は守られています。

私は砂防えん堤という言葉は初めて耳にしましたが土石流の実験を見学して土石流の怖さと砂防えん堤のすばらしさを感じることができました。実験を見せてくれた国土交通省の方が桜島では1年に何度も土石流が発生していると話していました。しかし、被害のニュースは流れません。それは、砂防えん堤が土石流を防いでくれたからだったのです。

こうしたさまざまな取り組みで土砂災害を防ごうとはしているものの完全に無くすということではできません。今まで起こった災害をもとに被害の軽減を目指してほしいです。そして、何よりも自分の身は自分で守るという一人一人の心構えが大切なのだと思います。